



感染性胃腸炎には経口補水療法が有効！

経口補水療法とは、点滴の代わりに経口補水液を口から飲ませて水分を補給する治療法です。

- ★**経口補水液（ORS）とは？**嘔吐や下痢によって失われた塩分と水分が効率よく吸収されるように調合された飲み物です。市販の経口補水液としてOS1（大塚）とアクアライトORS（和光堂）があります。
- ★**どんなときに？**：軽症から中等症の感染性胃腸炎のお子さんへの初期治療として行ないます。
- ★**いつから？**嘔吐や下痢が始まって経口摂取が可能なら家庭で速やかに開始してください。
- ★**どれくらいの量？**ティースプーン1杯、ペットボトルのキャップ1杯程度（5ml）を5分ごとに飲ませましょう。嘔吐がなければ与える間隔を短くしていきます。途中嘔吐しても我慢強く続けてください。一気に飲みはせずに少量ずつ頻りに飲ませることが大切です。体重10kgなら、5分ごとに10ml、1時間で120ml以上を目標にしてください。
- ★**食事はいつから？**ORSを飲ませて脱水が改善したら年齢に応じた食事を与えてください。
- ★**こんな時は病院へ？**活気がなくうとうと眠る、手足が冷たい、刺激に過敏（ずっと泣く、不機嫌）、呼吸が荒い。こんな時は重度の脱水症状の可能性がありますので直ちに医療機関を受診しましょう。
- ★**ジュースや麦茶でもいい？**塩分が含まれていないので脱水が悪化することがありますので、避けてください。野菜スープや薄めたお味噌汁は代替できるでしょう。



5～11歳のコロナワクチンは発熱が少ない！

今治市では3月下旬から5～11歳の小児向けのワクチンが接種されています。当院で2回目の接種に来られた保護者の方に、1回目の接種後の様子を聞いてみると、**4月末時点で38℃以上の発熱をきたしたお子さんはいませんでした。**ワクチンメーカーの調査でも発熱の頻度は1回目で2.5%、2回目で6.5%です。**12歳以上のお子さんに比べて発熱を含めた副反応の頻度は明らかに低い印象**です。ワクチンの抗原量が成人の1/3と少ないせいかもしれません。

4月の感染症情報

RSV感染症は下火となり、感染性胃腸炎が流行しています。主な症状は嘔吐で下痢は比較的軽いようです。一部のお子さんの糞便からノロウイルスが検出されています。季節の変わり目で鼻かぜをひくお子さんが目立つようになりました。発熱があるときはコロナと鑑別が必要です。発熱外来を受診してください。

4月の利用状況

4月の利用延べ人数は68名で、1日の平均利用人数は3.4人でした。年齢別では1歳児が32人で最も多く、次いで2歳児の18人でした。疾患別では急性上気道炎が29人で最も多く、次いで感染性胃腸炎の21人でした。RSV感染症は6人と先月（45人）に比べて激減しました。新しく入園したお子さんが風邪をひいて入室するケースが目立ちました。とくに鼻水が出て夜間寝づらいお子さんが多いようです。鼻の加温や加湿、鼻水の自宅吸引を試みてください。新しい環境の変化に加えて寒暖の差が激しい時期です。くれぐれもご自愛ください。